

警鐘レポート2 注射剤の血管内投与後に発症したアナフィラキシーによる死亡

事例18

< 事例概要 >

- ・ 40歳代、生体肝移植後の患者。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。
- ・ 原因薬剤は、血漿分画製剤（献血ヴェノグロブリン）。病室で発症。
- ・ 過去に薬剤を使用し、アレルギー症状の出現無。
- ・ 血漿分画製剤の点滴を開始した直後にトイレで排便し、10分後、ベッドに戻ると倦怠感と胸苦しさが出現。初発症状から15分後、経皮的動脈血酸素飽和度（以下SpO2）80％台となり酸素投与を開始し、薬剤投与を中止。約30分後、SpO2 が上昇し、薬剤投与を再開。約1時間後、SpO2 70％台となり、緊急コール。約1時間半後、心停止となりアドレナリン1mgを静脈内注射。救急処置を実施するが、約5時間後に死亡。